（別記）

# 豊郷町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## １　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 65 パーセントで、他作物においては小麦、大豆、加工用米、備蓄米の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他作物への転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中で、水稲作付面積の維持や新規就農者の育成が課題となっている。

## ２　作物ごとの取組方針

適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

（１）主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

（２）非主食用米

ア　飼料用米、米粉用米及びＷＣＳ用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、水田の有効活用を図るため、需要に応じた生産を推進する。

イ　加工用米及び備蓄米

主食用米の需要減が見込まれる中、水田の有効活用を図るため、需要に応じた生産を推進するとともに、産地交付金を活用し生産の拡大を図る。

（３）麦、大豆、飼料作物

ほ場整備地域においては、弾丸暗渠等による排水対策に取り組みながら、団地化及びブロックローテーションを維持し、5 年後においても、現行の麦・大豆の作付面積を維持する。

（４）そば、なたね

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物としての活用を推進する。

（５）野菜

持続的な環境こだわり農産物の振興を目的として、認証を受けた野菜・花卉について産地交付金を活用して助成を行う。

（６）不作付地の解消

現行の不作付地について、加工用米・花卉などの作付けを推進する。

## ３　作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 平成 28 年度の作付面積（ha） | 平成 29 年度の作付予定面積（ha） | 平成 30 年度の目標作付面積（ha） |
|---|---|---|---|
| 主食用米 | 257.0 | 250 | 250 |
| 飼料用米 | 2.2 | 6 | 6 |
| 米粉用米 | | 0 | 1 |
| WCS 用稲 | | 0 | |
| 加工用米 | 2.3 | 1.4 | 6 |
| 備蓄米 | 0.2 | 0.7 | 1 |
| 麦 | 99.1 | 99.2 | 103 |
| 大豆 | 90.8 | 94.2 | 99 |
| 飼料作物 | | 0 | |
| そば | | 0 | 0 |
| なたね | | 0 | 0 |
| その他地域振興作物 | 3.7 | 3.8 | 11 |
| 野菜 | 3.4 | 3.5 | 10 |
| 花卉 | 0.3 | 0.3 | 1 |

## ４　平成 29 年度に向けた取組及び目標

| 取組番号 | 対象作物 | 取組 | 分類※ | 指標 | 平成 28 年度（現状値） | 平成 29 年度（目標値） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | （　　） | （　　） |
| | | | | | （　　） | （　　） |
| | | | | | （　　） | （　　） |
| | | | | | （　　） | （　　） |

※「分類」欄については、実施要綱別紙 15 の２（６）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか１つ記入してください。）

ア　農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
イ　生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
ウ　地域特産品など、ニーズの高い産品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度（目標値）」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、（　　）内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

## ５　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり